

ココタウンデイサービスセンター

症 例 概 要 ご利用者：80代 女性 要介護1

期 間：2021年4月～2022年8月

経 過：子供の頃に右股関節ペリテス病発症され、器具装着で固まるが40歳前に再発。約30年前に夫が亡くなったことで、3年後長男夫婦と同居となる。2006年3月に股関節窩骨頭置換術を行うが、その後も3回脱臼を繰り返し、2018年12月股関節外転装具を装着される。2020年8月転倒され圧迫骨折となり、以前は簡単な家事や毛筆、ペン習字、エッセイ等の趣味活動の他、ボランティア活動を通じて友人との交流も活発だったが、骨折後はコロナ禍の影響もあり、交流の機会も減って、自宅に引きこもる事が多くなった。ご家族は筋力低下と自宅での生活維持が難しくなることを心配され、通所の利用が開始となる。

内 容

要支援Ⅱの認定を受け、2021年4月通所の利用が開始となりました。利用当時は杖歩行で入浴は自宅で入られていました。8月頃より右股関節に痛みが出て歩けなくなり、受診するが手術は出来ないと診断あり精神的にかなり落ち込んでしまいました。

区分変更後、要介護度1の認定を受けて移動は車椅子、通所での入浴が始まりました。入浴については、ご本人より股関節の可動域や脱臼の不安がありシャワー浴の希望が強くありました。医師からは浴槽に入る事について、股関節に問題ないと話があったことやこれから冬場に向かうことを考え、なんとか浴槽でゆっくり温まる事が出来ないか介護と看護で検討しました。股関節の可動域などの資料を参考にしながら、浴槽への入り方を学び、準備を整え、ご本人にその旨を伝えるも何十年も浴槽への入浴を実施していないことや浴槽をまたぐ自信がないことを理由に、不安の声がありました。そこでご本人の身体能力の向上と自信をつけてもらうことを目標に歩行訓練を開始しました。

まずは、車椅子からの立位保持から開始し、短い距離の職員手引き歩行、ダイルーム内での歩行器移動へと段階を踏み、ご利用の度に何度も繰り返すことで、自身の身体に自信が持てるようになり、徐々に前向きな言葉が出るようになりました。

再度、ご本人へと浴槽での入浴についてお伺いすると、「少し不安があるけど、今なら出来るかもしれないわね」とおっしゃって頂く事ができ、浴槽に入ることを実践しました。できないと思っていたことが出来た達成感と、何十年ぶりの浴槽での入浴は心身を芯まで温め、大変喜んでくださいました。又、自宅

玄関前の階段についても車椅子スロープの昇降から、職員付き添い歩行での上り下りへと変更することが出来るようになり、以前のような外出の喜びを実感して頂くことができました。そして、ご本人よりこの通所に来れたことを嬉しく、本当に楽しみにしていると笑顔でお話してくださいました。

ご利用者のニーズを取らえ、ご本人の喜びや楽しみに繋げる事ができたことを、私たちの喜びとし、これからもたくさんの輝く瞬間に立ち会えるようにスタッフ一同努めて参ります。